

思えば即ち備え有り

「備えあれば憂いなし」。よく知られたことわざです。中国の「書経」の中の言葉で「安きに居りて危うきを思う、思えば則ち備え有り、備え有れば患い無し」と記されています。また、ボーイスカウトのモットーは「備えよ、常に (Be Prepared) 」であります。

9月1日は防災の日です。1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災に因んで制定されたものですが、台風の襲来が多いとされる雑節の一つ「二百十日(立春から数えて二百十日目)」がこの時期に当たることも根拠になったようです。何れにしても「災害への備えや対策を怠らないように」との戒めを重々確認すべき日であります。

高松市でも南海トラフに起因する地震等の大規模災害に備えて、ハード、ソフト両面にわたる各種施策を積極的に展開しています。ハード面では、国や県と連携して防潮堤や河川堤防のかさ上げ強化、公共施設、住宅の耐震化の推進等を行っています。併せて、市民の安全・安心を守る拠点施設として、本庁舎西側に、常設の災害対策本部室を持ち、消防局本部と上下水道局の機能を集約した「危機管理センター(仮称)」を整備しています。

ソフト面での対策はより重要です。特に各地域において必要な初動体制が迅速にとられ、情報伝達や避難の方法、要配慮者の支援のあり方などがあらかじめ関係者に共通認識されていることは極めて大切です。その基本の組織となるのが各地域の自主防災組織です。おかげさまで、本市においては、昨年度末に、すべての地域に包括的な自主防災組織が結成されたことにより、活動カバー率が100%を達成しました。これからは、有事の際に組織が十分に機能するように実戦的訓練を重ねるなど、組織の更なる育成強化が課題です。その他、消防団員の確保や機能別分団(香川大学防災サポートチーム)の結成、津波避難ビルの指定や防災ラジオの販売、防災マップの各世帯への配布、各地域コミュニティ継続計画の策定支援等各種ソフト対策に力を注いでいるところです。

「天災は忘れた頃にやって来る」(寺田寅彦)という教えもあります。いざという時に自分がどう行動すべきかを平時に考えておくこと、それだけでも随分違って来るはずですが。「思えば即ち備え有り」なのですから。